

(出典：金子光美・保坂三継ら，”水道の病原微生物対策”，丸善(2006)，pp. 144)

表 3.3 1982～1996 年の細菌性感染症集団発生の水源別集計結果

飲料水の水源地	発生件数 (件)	割合 (%)	発生原因別件数		
			処理の失敗 消毒不備	施設の 不適切管理	その他 (不明)
上水道	5	6.0	1	4	
簡易水道	5	6.0	2	1	2
簡易専用水道	5	6.0		3	2
専用水道 (表流水)	1	1.2	1		
井戸水 (専用水道および個人用)	45	53.4			
湧水・沢水	10	11.9			
その他 (不明を含む)	13	15.5			
合 計	84	100.0			

表 3.4 1982～1996 年の細菌性水系感染症集団発生の原因細菌別集計結果

原因細菌	件数* (重複計数)	割合 (%)
病原大腸菌の各血清型 (<i>E. coli</i> O157:H7, 内書き)	63 (2)	56.3
<i>Campylobacter</i> (カンプイロバクテリウム) (<i>Campylobacter jejuni/coli</i> , 他)	23	20.5
赤痢菌 (<i>S. sonnei</i> , <i>S. flexneri</i> , <i>S. boydii</i>)	8	7.1
<i>Salmonella</i> spp. サルモネラ (<i>Salmonella Typhi</i> , 内書き)	6 (1)	5.4
<i>Yersinia</i> spp. エルシニア	4	3.6
<i>Clostridium perfringens</i> クロストリジウム	3	2.7
<i>Aeromonas</i> spp. アエロモナス	2	1.8
<i>Staphylococcus aureus</i> 黄色ブドウ球菌	1	0.9
不 明	2	1.8
合 計	112	100.0

* 複数の病原細菌が同一感染事例にかかわっている場合があるため、発生事例件数よりも多い。